



く「帰朝舟を泛かぶるの日發願して云はく、我が学ぶ所の教法若し感応の地有らば此の三鈷其の処に至るべしと。仍つて日本の方に向かひ三鈷を抛げ上げたまふ。遙かに飛んで雲に入る。十月に帰朝す」と。又云はく「高野山に入定の所を占む。乃至彼の海上の三鈷今新たに此に在り」と。

金剛頂經の疏に云はく 慈覚釈 「毘盧遮那經に云はく、我昔道場に坐して四魔を降伏すと。此を以て知ることを得、毘盧遮那仏久現証と云ふと雖も、而も成仏以來甚だ大いに久遠なることを」と。又云はく「彼の法華久遠の成仏は只此の經の毘盧遮那仏なり、異解すべからず」と。

教時義の四に云はく 安然の釈、弘法を破するの文なり 「但し此の文中に法華を判じて略説と為すことは唯理を説けばなり。故に知んぬ、真言教を広説と為すことは、広説とは事理を説けばなり」と。

秘藏宝鑰の中に云はく「謗人謗法は定めて阿鼻獄に墮して更に出づる期無し。世人此の義を知らず。舌に任せて輒く談じ深害を顧みず。寧ろ日夜に十悪・五逆を作るべくも一言一語も人法を謗るべからず」と。又云はく「師の曰く、菩薩の用心は慈悲を以て本と為し、利他を以て先と為す。能く斯の心に住して浅執を破し深教に入る利益尤も広し。若し名利の心を挟みて浅教に執して深法を破すれば斯の尤を免れず」と。

教王經の開題に云はく「金剛頂經及び大日經は、並びに是竜猛菩薩南天の鉄塔の中より誦し出だす所なり」と。

不空三藏の要決に云はく「其の大經本は阿闍梨の云はく、經帙広長にして床の如し。厚さ四五尺、無量の頌有り。南天竺界の鉄塔の中に在り」と。付法伝に云はく「鉄塔は是人功の所造に非ず。如来神力の所造なり」と。

大日經に云はく「大日遍照尊微塵衆生と為りて八相示現を成し、衆生と同じく受苦す」文。